

令和6年度福岡県嘉穂・鞍手保健所運営協議会議事（要旨）

1 日 時 令和6年11月13日（水） 13：30～14：35

2 場 所 飯塚総合庁舎 2階 大会議室

3 出席者 委員17名 代理出席2名 合計19名

4 議 事

(1) 嘉穂・鞍手保健所運営協議会各部会の報告

令和6年度の部会について報告、説明を行った。

ア 救急医療部会

<飯塚地区>

◆開催期日：令和6年8月2日（金）

<直鞍地区>

◆開催期日：令和6年7月31日（水）

イ 保健事業部会

◆開催期日：令和6年9月4日（水）

ウ 精神保健福祉部会

◆開催期日：令和6年8月1日（木）

(2) 令和5年度福岡県嘉穂・鞍手保健所における実績報告

令和5年度の実績報告について、業務概要により説明を行った。次のとおり質疑応答があった。

ア 総務企画課（企画指導係）

イ 健康増進課（健康増進係、精神保健係）

（委員A）：食生活改善推進会の動向について聞きたい。

（事務局）：食生活改善推進会の方々の高齢化が進んでおり、若い方になかなか入ってもらえないのが現状。市町で養成研修会を実施していただいているが、若い方に入ってもらえるよう、普及運動、声掛けに力を入れていきたい。

（委員B）：直方では会員が少し減少したが、飯塚、嘉麻、宮若でたくさんの会員がいる。食生活改善推進会では、減塩活動に力を入れている。

ウ 保健衛生課（食品衛生係、生活衛生係、感染症係）

(3) 令和6年度嘉穂・鞍手保健所における計画と重点事業

令和6年度の計画と重点事業について資料を使用し、説明を行った。次のとおり質疑応答があった。

ア 総務企画課（企画指導係）

イ 健康増進課（健康増進係、精神保健係）

（委員C）：ゲートキーパー養成は大学だけで行われる予定なのか？自殺の問題は、職員や子供たちのなかでも関心事項になっている。小中学生等への対応はどのように考えているのか。

(事務局) : 大学に関しては、いろいろなところに働きかけたが、実現に至ったのは、今年は1カ所だった。小中学校での若者の自殺は増えているため、自殺対策は大切だと考えている。しかし、授業の年間計画が立っているので、対面で講演会等をするのは、難しいのが現状。

(委員D) : 県でゲートキーパーの研修を行う際に、誰が、どこの市町村で、どういう研修に出られたかを教えてもらえると、市町村で研修をする際にも、集まっていただけではないか。

(事務局) : 現在、研修ごとで名簿は作っていない。県全体として、研修を受け、自身で勉強してもらい、勉強したことを広めてもらうというところで終わっているのが現状。保健所でも、実習に来られた方等、さまざまな機会を介して研修を実施しているところ。要望があれば、こちらから出向き、実施することも可能と思うので、相談してほしい。

(委員E) : 資料4の「自殺への偏見」という言葉の解釈について教えてほしい。

(事務局) : 自殺する人が弱いということではなく、生きたい気持ちを持っているが、さまざまな要因が重なり、追い込まれた末の選択、というような意味合いで書いている。表現が適切でなければ、今後気をつけたい。

(委員F) : 地域在宅医療の推進状況について聞きたい。

(事務局) : 現在、医療と介護の連携というところを進めている。2次医療圏ごとにみると、直轄地区は、県下で訪問診療数が人口比で1番多くなっている。看取り数は、飯塚地区が1番、直轄地区も増加しているところ。管内でみると、訪問歯科診療等の社会資源は、全国平均、県平均と比べて高い状況。飯塚地区については、職員等の関係者の資質向上のための研修会や、住民対象の研修会をして頂いている。直轄地区についても、さらに横の体制整備を整えていきたい。

(委員F) : 保健所として医師会、看護師への働きかけはできるのか？

(事務局) : 会議には、飯塚地区も直轄地区も参加をしている。データの提示、問題提起をしながら、関係団体や市町の方と協議し、地域在宅医療を進めている。

ウ 保健衛生課（食品衛生係、生活衛生係、感染症係）

(委員G) : 幼稚園・保育所の子供の集団の生活の場での感染症対策で当該施設の職員を対象とした研修会を開催していると思う。学校での嘔吐や、排せつの失敗があったときに、子供が傷つかない対応を研修会で学ぶべきだと思うが、研修会の内容を知りたい。

(事務局) : 研修会については、先日行ったところ。今後、関係者の方々と意見交換しながら、子供の心のケアというところも、取り入れていきたい。

5 その他 質疑応答・意見等

(委員H) : ワンヘルスに対する保健所の方向性があれば教えてほしい。

(事務局) : 保健所として担当事業を所管はしていない。新興感染症への水際対策、薬品の適正使用、環境動物との適切なふれあい等、保健所の業務として、さまざまな場面で少しずつ、ワンヘルスにつながっている。県の施策的な事業としては、県庁のワンヘルス推進課というところで受け持っている。

(委員H) : ワンヘルスについてはこれからの課題が多いと思う。これからも、市町への資料の提供や指導をお願いしたい。